

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3271400404		
法人名	雲南福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム加茂の郷・つつじ		
所在地	島根県雲南市南加茂706番4		
自己評価作成日	平成25年8月23日	評価結果市町村受理日	平成25年10月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ワイエム		
所在地	島根県出雲市今市町650		
訪問調査日	平成25年9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地から離れた立地ではあるが、地域の方への行事参加の呼びかけ又自分達から地域へ出かけることにより地域交流をすすめている。開所から、8年半が経過し地域の皆様にも認められ、今年4月には隣接する加茂の杜の1ユニット増床し加茂の郷・加茂の杜共に2ユニット体制となり、事業所ごとにより良いケアに努めている。ご家族との関係作りもすすめており、生活のご様子の連絡や行事への呼びかけをし、信頼関係の構築に努めている。また利用者の皆様により良いサービスを提供する為、職員研修マニュアルを作成し全職員に研修を行い、サービスの質の向上に努力している。救急法、避難訓練も定期的に行なっている。開所し8年半の経過の中で入居者様の重度化に伴い終末期ケアにも取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

国道沿いにあるホームは、工業団地内にあり、安全な立地である。木造構造で、延床面積が約726㎡とゆったりとしたホールと居室の床は木材となっており、暖かみのある、落ち着いた雰囲気である。利用者さんは、ソファやテーブルなど、好きな場所に居て、会話やテレビ、趣味などで、それぞれに過ごしている。他のユニットとは、渡り廊下でつながり、行き来して交流している。開所後はじめて看取りへの取り組みをケアチームの連携で行うとともに、今後の課題として、地域とのつながりをさらに強めることと、利用者さんが役割をもって生活していくための自立支援への取り組みを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議、ユニット会議にて理念の確認をし実践につなげている。	理念の一つである「地域とのつながりを深め、開かれたホームを目指す」については、地域のボランティアの方がホームを訪れたり、祭りに招かれた時などにホームを住民が認知してくれたと確信できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、加茂の郷の行事に参加して頂き、交流を図っている。	ホームの食材を地元商店から調達したり、運動会や、町内のお祭りでは、神楽や屋台を楽しんでいる。玄関ホールには、地域住民の作った作品が飾られているが、ボランティアさんと利用者さんが折り紙を一緒に作ったりなど、地域とのつきあいを積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	具体的には行っていないが雲南市認知症地域支援推進委員会に参加をし意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は年6回開催し頂いた意見は常に検討し、改善するよう取り組んでいる。	隔月毎に行われる運営推進会議には、利用者家族、自治会長、行政など10名以上が出席し、利用者個々の事例や運営に関する事まで、話し合われており、「イベント案内を地域の事業所に配布してはどうか」という意見なども取り入れられた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から連携を図り、良好な関係作りに取り組んでいる。	市役所や広域連合とは、顔の見える関係を築いており、利用者さんのケアや権利擁護など、また、利用者さんの入居者確保などホームの運営などについても、相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	主任会において、身体拘束廃止委員会を立ち上げ毎月状況を把握している。夜間センサー使用の方がいるが毎月、ユニット会にて検討をしている。園内研修にて、全職員が理解するよう努めている。	お部屋で過ごしているときに、転倒などのリスクが高い利用者さんに利用しているセンサーも身体拘束と認識しており、運動や散歩など転倒予防のための支援も行っている。新人職員には、主任から丁寧な指導が行われる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会の参加により、虐待について学ぶ機会を設けている。言葉遣いにも注意をし、職員同士意識をしあっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の研修参加の機会を随時実施したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	副施設長、管理者で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や苦情相談窓口を設けて対応している。面会時には、ご家族の要望を伺うようにしている。	家族さんが、面会に来られた際に利用者さんの好きなことを聞き取り、お料理や書道など出来ることを促して援助しながら、個別のケアの向上に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や面談時意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	職員は意見やアイデアを会議やミーティングで気軽に発言でき、ドライブの行き先についての良いスポット情報を活かしたり、利用者さんとの会話から、楽しめる活動などを工夫して行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に向上心を持って働けるように環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や園内外の研修参加を勧めている。又職員研修マニュアルを整備し全職員のレベルアップにつながる様に努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	雲南地域のグループホーム部会での研修参加を通して職員同士が交流を深める機会を設けている。他施設との交換実習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に御本人に会う機会は設けているが入居されてから、関係作りに努めている。生活歴など情報収集をし、安心して頂ける様な声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の契約の説明の際、要望等に耳を傾け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で当施設での利用が最善か否かを判断し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る能力を大切にし、一緒に行い援助している。(洗濯物干し、食事の盛り付けなど家事)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には日々の様子を伝え家族の意向なども伺うようにしている。受診や外出、外泊などの協力や、行事参加への呼びかけを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	すべての関係性の継続は難しいが行きつけの美容院への外出など入居後も継続出来る事は可能な限り行っている。	利用者さんの家族が遠方におられる場合は、お便りを毎月送るだけでなく、病院受診の際に電話連絡して、面会をさりげなく促して、家族との関係が遠のかないような援助を行っている。個々の希望に合わせた馴染みの場所への外出にも取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し利用者同士で関わり合い、会話等出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居にあたっては、次の生活の場の確保や関係機関との連絡調整を図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向を知る為に会話に耳を傾けるように努めている。ご家族からの意見も聞き、その人らしい生活が出来る様ユニット会議で話しあっている。	職員は、利用者さんと積極的に会話しており、そこから希望や思いをくみ取り、一日のメニューを自分のペースで過ごせるよう援助している。利用者さんは、好きな椅子や場所で思い思いに過ごし、利用者さんどうしの友愛関係も築いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴など本人、家族、ケアマネジャーなどより情報収集し暮らしの把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の体調や生活リズムの把握をし職員は声掛けを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にて、モニタリング、カンファレンスを行い利用者の状況を話し合いケアに努めている。ご家族にも要望を聞き介護計画を作成している。	介護計画には利用者さん、家族、職員全員の評価や意見が反映されている。個々の状況の変化に対しても、都度計画の見直し、変更が行われており、利用者さん、家族は満足している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の健康状態、行動などの様子を記録に残し、職員間で情報の共有をしている。ケアプランは3ヶ月ごとの見直しをし、状態変化によっては、都度見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	実施していない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療、自治会、地域ボランティアなどの地域資源を活用し、利用者の暮らしを支援している。(絵手紙、音楽リハビリ)。自治会との関係をさらに深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して受診、応診を行っている。看護師を中心となり、主治医との関係作りに努めている。	病院受診には、職員が付き添うこともあるが、その際には、家族への報告をするなど、細やかな医学的管理が行われている。医師、看護師など、医療者との協力により、看取りケアにも取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現場での、医療的な部分では介護職から看護職へ状態報告をし相談している。看護職から適切な医療につなげている。		
32		○入院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院との連絡を密にとりカンファレンスの開催も働きかけ、参加をしている。本人、家族、病院との関係を大切にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医との話し合いの場を持ち、ご家族の同意、要望を都度確認をし終末期ケアに取り組んでいる。また終末期の研修を行い職員全員で支援している。緊急時のマニュアルを作成し、職員に周知している。	開所以来初めての終末期ケアであり、馴染みのホームで最後まで過ごしたいという利用者さんと家族の希望を取り入れたケアに取り組んでいる。夜間にも、必要に応じて看護師と連絡が取れたり、駆けつけたりできる体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、会議でシュミレーションを行い、マニュアルの再確認をしている。救急法の受講や酸素の使用法の研修を行い、実践力を身に付けている。AEDの設置をし、緊急時の対応力強化に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災の避難訓練は定期的実施し、職員会議や、ユニット会議にてシュミレーションを行い避難の方法を身につけるよう努めている。地域の方の参加もして頂いた。今後も地域の方の参加での訓練を継続していきたい。	利用者さんも参加する避難訓練を年2回行っている。自治会長の協力で地元消防団からも団員が参加し、建物の間取りや避難路、利用者さんの状況などを見てもらい、避難誘導について指導を受けるなど、災害時への備えを確実にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しての言葉遣いには配慮している。排泄時声掛けや、声の大きさなどには特に気を付けている。言葉遣いの気になる時は職員同士注意をし、改善に努めている。	利用者さんとの会話には、丁寧な言葉に心がけている。排泄に関しては、恥ずかしい思いをさせないよう、周りにそれとさせられないようにトイレへ誘導するなど、誇りやプライバシーが損なわれないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような声掛けや、働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の出来る事を把握し、一人一人のペースにあわせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を一緒に選んだり、髭剃り、洗面、整髪の声掛けをし支援している。自分でできる方は自分でして頂くよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に盛り付けや、調理の下準備など行っている。月2回の希望献立の日を設け、利用者の希望のメニューを取り入れ、調理参加を行っている。	テラスから続く畑で採れた野菜の味噌汁や旬のショウガご飯で、季節を感じる昼食は、その話題で盛り上がっていた。職員は、制服ではない個性的な服装であり、全員がともに食卓を囲み親しみやすい。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量を把握し、加減したり、補食したりしている。水分量の少ない方はチェック表を作りこまめに水分を勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々の利用者に応じて声掛けし見守り、介助を行っている。義歯洗浄剤を使用し、清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェック表を使用し排泄のパターンを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。	利用者さんによっては、失禁される場合もあるが、周りにそれとさせられないように、援助したり、場合によっては、一時的にベッドサイドにポータブルトイレをしつらえて、利用者さん自身で排泄出来るよう自立支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や乳製品の摂取、運動を勧めるなどしている。様子をみて、便秘薬の服用にて、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の気持ちを大切に、一人一人のペースに合わせた入浴の支援をしている。時間帯については、決められた時間帯である。	お風呂は毎日準備しており、身体の清潔に心がけている。一人で入れる利用者さんには、浴室の外から安全を見守る。また、入浴時に何気なく交わされる会話も大切に、くみ取った意向などを日々の生活に取り入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況によって、日中休息が取れる様配慮している。夜間も一人一人のペースに合わせて入眠出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用など理解出来る様に個々のカルテに内服の一覧がある。薬の変更があった場合も周知できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や出来る事を把握し個々に合ったことをして頂いている中で役割分担が出来ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望は難しい事もあるが、ドライブを計画したり、誕生日に外食をするなど希望に添えるよう支援している。日常的に外出することは少ない。	ドライブや買い物以外にも、ホーム周辺の広々とした敷地内で自然を感じながらの散歩をするなど、気分転換や運動のための外出に心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方は、お金を管理し買い物時自分で、支払いをされている。管理の難しい方は、事務所で預かり、必要な時使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には使用して頂いている。絵手紙作成後家族に出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさや、温度には気をつけている。季節感のある、飾りをしたり、テーブルやソファを置きくつろげるようにしている。	木の床材や和紙をあしらった電灯は、暖かみがある。壁には利用者さんの生き生きした表情のスナップ写真や作品なども飾られている。テラスからスロープで庭に自由に出られるので開放的であり、生活を飽きさせない工夫が随所に見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、利用者が落ち着くところへ座り過ごしている。畳コーナーもあり、くつろげる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用されていた家具や仏壇を持って来ておられるかたもある。居室の壁も写真や本人の作品を貼ったり、それぞれに合った居室になるよう配慮している。	居室は利用者さんそれぞれの個性が感じられるしつらえになっている。洋室も和室もあるなど画一的にならないような配慮もある。個室でプライベートな時間を楽しめるよう職員は個別に配慮し見守っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の表札を掲げるなど利用者にわかるようにしている。また安全に配慮した、配置にしている。		